

AJU愛実

第46号 会報

編集: 特定非営利活動法人愛実の会

- ・愛実の会事務所
- ・居宅介護事業所あみ
- ・生活介護事業所障がい者デイセンター愛実
(大地の家／愛実友だちの家／紙風船)

定価:一部100円

理事長挨拶／戸田 真二	・ P1～2
法人事業報告	・ P3
会計報告(活動計算書)	・ P4
大地の家	・ P5～6
紙風船	・ P7～8
「ブラック ライブズ マター」に思う／島 しづ子	・ P9
寄付者名簿	・ P10



天井水族館
大地の家



希望の木
紙風船

理念の継承

新理事長 戸田 真二

2020年4月より、島しづ子前理事長の後任として理事長に就任し4ヵ月が過ぎようとしています。その間、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、今までにない緊張感の中で事業の継続を行って来ました。介護の現場はまさに濃厚接触が必然です。基礎疾患を持ち、マスクを着用できない多くのメンバーがいます。メンバー・アシスタントの命と生活を守るためにできるだけ3密を避け、感染のリスクを少なくするための環境整備（マスク・消毒・換気）外出活動の自粛等の対策を講じており、緊急事態宣言解除後の今もなお、この取り組みが続いています。



世代交代、そして先の見えないこのご時世にあって、愛実の会の役割（ミッション）を考えさせられています。前が見えないなら、初心に戻り、理念を見つめ直すことから始めたいと思うのです。私は、「福祉＝みんなの幸せを創造すること」だと考えます。それは、新しいものを誰かが造ることではなく、共に生きる中から新たな希望が生まれてくることを意味します。

《愛実の会理念》

今の社会は効率第一主義の価値観によって多くの人が生きにくくされている。このような時代にあって、愛実の会のメンバーはそれぞれのペースで一生懸命生きている。愛実の会は、メンバーの中にある輝く個性に導かれながら、彼らの存在を社会に紹介し、すべての人が生きやすい社会を作っていく。以下の項目を目標として、メンバーとアシスタント、メンバー同士、アシスタント同士、愛実の会と社会、それぞれの間にある垣根を取り払い、共に歩み、共に認め合うことを目指す。

1. 個性の尊重

お互いの個性を尊重し、助け合い、共に成長する場をつくる

2. コミュニケーションの重視

相互に信頼しあえる人間関係を築くためにコミュニケーションを大切にする

3. メンバーの生活支援

メンバーの必要に応じて、社会資源を活用しながら、一生涯支えていくことを目指す

4. 地域とのかかわり

地域に根ざすために、出会いを大切にし、開かれた場をつくる

この30年を振り返ると福祉の制度は大きく変化をしてきました。当時、福祉サービスが充実していなかった頃、自分ができることの限界、無念な思い、後悔の念を多々経験しました。そして今、福祉＝サービス時代の到来です。国の措置から利用者との契約に変わったのです。ノーマライゼーション（普通の暮らし）の提唱から、今ではインクルーシブ（誰も排除しない）の考え方が主流となってきました。時代は移り変わり、便利な世の中になりましたが、幸福感とは残念ながら比例していません。人々の生きにくさは決して減ることがないからです。愛実の会の理念にはすべての人が生きやすい社会を作り、それぞれの間にある垣根を取り払い、共に歩み、共に認め合うことを目指すとあります。改めてこれからの時代に、この理念の奥深さと必要性を感じるのです。そして、そのヒントが重い障がいを持つメンバーたちと出会う日々の中にあると思うのです。

愛実の会では、1対1（マンツーマン）での介護の実践を目指しています。メンバーが1日平均15人に対して、アシスタントも約同数いることになります。また、法人の全職員は給食員やドライバー、居宅ヘルパー等、パートさんを含め現在36名が在籍しメンバーの支援を行っています。そしてマンツーマン体制の意義は、介助者＝人手の必要性は勿論ですが、それ以上に一人ひとりと向き合い、寄り添い、声を聴く（傾聴）ことを大切にしたいからです。そこから生まれる安心・信頼・創造にこそマンツーマンの大切な意義があります。

《 十四の心で聴く 》

コミュニケーションの基本は「聴くこと」から始まります。

聴という字はみみへんに十四の心と書き、「耳を傾け、相手の心に寄り添いながらきく」という意味があります。ここでは愛実の会オリジナル十四の心を紹介します。以前にみんなから出てきた心です。

- ①「優しい」心で聴く
- ②「愛する」心で聴く
- ③「謙虚な」心で聴く
- ④「楽しい」心で聴く
- ⑤「さみしい」心で聴く（共感）
- ⑥「思いやり」の心で聴く
- ⑦「好奇心」の心で聴く
- ⑧「余裕」の心で聴く（ゆとりを持つ）
- ⑨「向上心」を持って聴く
- ⑩「研究心」を持って聴く
- ⑪「創造」する心で聴く
- ⑫「平らな」心で聴く（先入観をもたず新鮮に、公平）
- ⑬「あきらめない」心で聴く
- ⑭「押さえつけない」心で聴く



私たちは、日々メンバーと共に生活する中で、多くのことに気づかされます。仕事はこなすものではなく、流されるものでもない。日々の何気ない気づきの中にこそ、新たな創造が生まれます。そして、創造したことを言葉に変えて表現し、共感し分かち合うことがとても大切だと感じています。

愛実の会の原点は、実はここから始まっています。理念の継承が新たな創造を生み出し、支援の輪が一層広がっていくことを心より願っています。どうぞ、今後共、皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。また、お近くにお寄りの際は、お気軽にお越しください。

ひとりの喜びがみんなの幸せにつながるよう
ひとりの声を心で聴き 創造してみる
創造を言葉に変えて分かち合おう
みんなもひとり！
ひとりの笑顔はみんなの笑顔に
みんなで幸せを創造していきましょう！



2019年度事業報告

愛実の会は当法人の理念にのっとり、重度の障がいのあるメンバーのサポートに力を入れて、彼らが安心して充実した地域生活を継続的に送ることが出来るよう、他の団体と協力しつつより良いサポートを目指し下記の3つの事業に取り組んでいます。

① 生活介護事業

契約メンバー数 29名(2020年3月31日現在) 1日平均14.2名の利用(定員20人)
2つの部署(大地の家16名・紙風船13名)はそれぞれの特徴を生かしながら充実した活動を行ってきた。年明けからは新型コロナウイルスの感染拡大により、外出の自粛、イベントの中止等活動にも制限が生じた。一方、部署間の協力体制を組み、相互に応援できるかたちを取ることができた。

② 居宅介護・重度訪問介護及び移動支援事業

ホームヘルプとして(朝・夕の介助、入浴、通院、入院時、外出支援、家事等)を行い、24時間安心できる地域生活の支援を行った。2018年度月平均100件→2019年度月平均144件
名古屋市の移動支援事業は、通学及び通所時の付き添いを行った。2件73回
医療的ケアの必要性に対して喀痰吸引等の事業所登録を行い、体制の強化に努めた。

③ 独自サービス事業について (緊急時対応有料サービス)

緊急時の対応以外に利用の範囲を広げたことで利用件数が増加した。113件→188件
主なサービス内容(デイサービスの延長:朝・夕、入院時付添い、通院・外出移動支援)

★ 支援体制について 総数40名(2020年3月31日現在)

正職員14名、嘱託職員 2名、その他パート24名(生活支援員・看護師・給食・ドライバー等)

★ 全体研修について

- ・2019年4月28日(日) 講師:株式会社経営支援 志賀 弘幸氏
『福祉施設における働き方改革の取り組みとより良い施設づくりにむけて』参加20名
- ・2020年3月8日 講師:特定非営利活動法人ひろがり 丹羽陽一氏
『ふれあい体操から静的弛緩誘導法の効果について』参加16名

愛実の会では、今年度より「見える化」を進めています。事業報告の詳細についても、ホームページにて掲載しています。『愛実の会』で検索下さい。

★ 2020年度法人活動方針

- ① 運営会及び事務局体制を見直し、新たな組織づくりを目指す
- ② 新型コロナウイルス対策として、できる限りの環境整備を講じてメンバー、家族、職員が安心できる事業の継続を目指す
- ③ 法人の理念を具体化しながら、将来のビジョンを明確にしていく
 - ・シェアハウス構想については3年を目途に準備を進めていく
 - ・地域への理解や交流及び施設の見える化を促進させていく
- ④ 特定処遇改善加算の取得に向けて、キャリアパスの仕組みを再構築していく
- ⑤ 愛実の会の活動をブランド化していく



活動計算書

2019年4月1日～2020年3月31日

特定非営利活動法人 愛実の会

科 目	金 額		単位:円
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	147,000	147,000	
2. 受取寄附金			
寄附金	2,803,453		
夢づくり	173,462		
受取寄附金計		2,976,915	
3. 受取助成金等			
受取助成金	2,550,000	2,550,000	
4. 事業収益			
1)生活介護事業収益	96,540,243		
2)居宅介護事業収益	14,755,534		
3)移動支援事業収益	198,000		
3)独自サービス事業収益	161,250		
事業収益計		111,655,027	
5. その他収益			
雑収益	887,478	887,478	
経常収益計			118,216,420
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
給料手当	60,199,640		
法定福利費	8,361,884		
福利厚生費	940,071		
人件費計	69,501,595		
(2)その他経費	28,668,174		
事業費計		98,169,769	
2. 管理費			
(1)人件費			
役員報酬	3,000,000		
給料手当	5,533,830		
人件費計	8,533,830		
(2)その他経費	4,661,912		
管理費計		13,195,742	
経常費用計			111,365,511
当期経常増減額			6,850,909
法人税、住民税及び事業税			71,000
当期正味財産増減額			6,779,909
前期繰越正味財産額			53,564,966
次期繰越正味財産額			60,344,875

※ 貸借対照表はWeb：愛実の会ホームページ及び内閣府NP0法人ポータルサイトより「愛実の会」検索にて閲覧することが出来ます。尚、皆様から頂いた寄付金は、
①福祉車両購入費(330万円)②紙風船夢づくり(人形劇制作費)等のために活用させていただきました。感謝を持ってご報告させていただきます。



大地の家

3月-6月

コロナ禍の中でも楽しく！

新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に大きくなり、2月下旬より愛実の会でも生活介護事業所において、外出・集会活動の禁止措置をとることになりました。

また、4月には緊急事態宣言が発令されたことを受け、対面での食事や距離を詰めて活動を行うことを取りやめました。

これまでの活動や食事の風景がガラリと変わり、はじめのうちは戸惑いが大きくありました。また、自分たちの日常が奪われてしまったことに対して、腹立たしくも悔しくも感じていました。

世間では連日のように新型コロナウイルス感染症のニュースが取り上げられ、どの報道番組でも同じようなことの繰り返しでした。

アシスタント(=職員)同士の会話も、感染症のことが中心になりがちでした。

そんな世間の様子やアシスタントの雰囲気、会話などから、メンバーも異変の大きさを敏感にキャッチしているのだと伺うことができました。

表情が冴えなくなった人、体に力が入りやすくなった人、感染症の話題に過敏に反応する人などがいました。

障がいの重いメンバーも彼らなりの受け止め方で、今回の感染症に対して思いを巡らせていることがあるのだと思います。

食事は大きな食卓をみんなで囲み、会話の多いにぎやかな食卓でした。皆で同じテーブルを囲み、同じ時に同じものを食べる、「食卓を共有する」ということを大事に実践をしてきました。

しかし、現在は同じ食卓を囲むことができません。対面での食事を避け、それぞれの机にわかれて食事をするようになったからです。



↑大きな机を囲んでにぎやかに…
ということが日常でした
(2020.3の様子)



↑長机にわかれて距離をとるように
新しい日常の様子です



↑より広いホールで活動することも
しばしば…なるべく距離をとって



↑なかなか出かけられないけど
室内でも元気に活発に

また、活動もホールで行うことが増えました。
なるべく距離を開けることや、机の数が増えたこともあり、これまでの活動室では手狭になったためです。

このことは、レクリエーションなどの活動の時にはホールに出て活動を行う、というメリハリがつきやすくなったこともあり、変化によるメリットを感じることがあります。

それと、メンバーにとってもホールに出る＝活動が始まるという場面の变化について認識しやすくなったのではないかと考えています。



↑レクリエーションの様子
物品は使用都度消毒しています

愛実の会の生活介護は休むことなく、メンバーの受け入れを続けてきました。
感染症の危機を感じることもありましたが、障がいの重い人にとって、日常の生活を維持することがとても大切だと考えていたからです。

日常が少しずつ変化し、その積み重ねが生活を大きく変えることもあります。彼らの様子を見てみると「感染症に負けない＝感染症にかからない」ということだけではなく、自分たちの日常を工夫をしながら維持していくことが必要だと感じるようになりました。

余裕があるのなら維持するだけではなく、日常をより豊かなものに変えていくことを目指し、感染症に打ち勝ちたいと思います。日常を維持しより楽しく生活できるよう、メンバーとアシスタントそれぞれが協力し合い日々を楽しんでいきたいと思っています。

新メンバー紹介 ♪

今春より大地の家のメンバーに加わった二人です。
小中高と12年通い続けた愛知県立港特別支援学校を卒業され社会に出られました。

通い始めたばかりで、ご本人もアシスタントも、周りのメンバーも、まだまだ思いを伝えあうことに難しさを感じています。

そして、本人たちもはじめのうちは環境の変化に戸惑っている様子もありましたが、徐々に慣れてきているように感じます。まずはお互いをじっくり知りあうことから始めようと思います。

時折見せてくれる笑顔に癒され、今後どんな関係を築いていけるかが楽しみです。



いつも大地の家の活動にご協力をいただき、ありがとうございます。
「大地の家に」と指定していただいた寄付は、音楽活動の充実や遠足実施を目的として大切にに使わせていただいています。
今後も引き続きご協力をお願いいたします。

紙風船のページ

楽しく” STAY 紙風船”



↑ 役者に挑戦！



↑ 体力づくりで
バスケット

新型コロナウイルス感染症の影響から、紙風船は人形劇の活動ができなくなり、予定されていた公演もすべてキャンセルとなりました。緊急宣言解除後は少しずつに日常生活を取り戻しつつありますが、外出の自粛や様々な制限の中で目標が定まらず、メンバーのモチベーションにも大きな影響が出ています。

そんな中「楽しく STAY 紙風船」活動の充実に向けた新たな取り組みが始まりました。

- ・ 即興劇をYouTubeへ投稿！
役者に初挑戦のメンバーも参加
- ・ 新グッズの作成
咳エチケット缶バッチの制作
- ・ 新作人形劇への取り組み



YouTube
チャンネル登録
お願いします！



ようこそ紙風船へ☆彡

何にでも
チャレンジしたい！



4月から紙風船に新しい仲間が一名加わりました。
W.Rさんは港特別支援学校卒業後、週6日紙風船へ。
大変明るく何事にも積極的な彼女は人気者!!まわりの
メンバーも元気をいっぱいもらっています。
早く人形劇に参加できる日が来ると良いですね！



夢づくり基金募集



紙風船の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて紙風船は昨年度の後半から、演出家のおぼらしげる先生の提案から、新作づくりに取りかかっています。2010年に「ぼくたちにできること」「かめさんのありがとう」「ポンタとたっくん」の3作品を完成させてからすでに10年。その間メンバー・アシスタントの入れ替わりもたくさんありました。ここは心機一転、新メンバーも加わり、多くの方にさらに紙風船を知っていただくためにも是非新作を完成させようとみんなで意気込んでいます。今のところ「はだかの王様」を基にした物語になる予定です。

新作の人形劇は今までの作品とは違い、新しいスタイルが求められています。まず台作りから始まり、みんなで何度も何度も話し合います。完成に向けての道のりは決して容易ではありません。メンバーひとり一人の持ち味に合わせて役作りを行い、また全員が車いすを利用していることから、人形操作も個々の障がいに応じた工夫が必要となります。そして制作費用も、人形やペープサードパネル・大小道具類等の舞台設備を含めておよそ100万円を見込んでいます。

今年は感染症蔓延の影響で公演活動ができない分、新しい夢づくりにみんなでチャレンジしていきます。

どうぞ「夢づくり基金」へのご協力をお願い致します。新作が完成した折には、皆様を招待してお披露目を開催し、完成の喜びをいっしょに分ち合えることを心より願っています。

寄付目標額 50万円 (現在の夢づくり預金残高50万円)

咳エチケット缶バッチを作りました！



公演予定や日々の活動の様子をSNSで紹介しています！

YouTubeに新しい動画をアップ！
紙風船Webサイトへ

ステイホーム期間を利用して新グッズを考えました。喘息や花粉症の咳に悩んでいる方に咳エチケット缶バッチはいかがですか？ご注文は人形劇団紙風船Webサイトで承っております。

人形劇団紙風船

検索

「ブラック ライブズ マター」に思う

沖縄から 島 しづ子

みなさま、お元気ですか。私は沖縄では礼拝や祈祷会のほかに、辺野古や大浦湾で新基地建設反対運動の船に乗せてもらっています。亀が泳ぎ、魚もたくさんいます。昨日はヒラメを見ました。いつかジュゴンに会いたいです。海を見ては、空を見てはみなさんに見せたいなあと思っています。でもみんなは食べ物のほうに興味ありそうですね。今はマンゴーとパッションフルーツが市場にいっぱい出ています。

今年5月25日、アメリカで黒人のジョージ・フロイドさんが、白人警官によって殺害されました。この事件にはびっくりしました。ジョージ・フロイドさんが警官に殺されたことから再び「ブラック ライブズ マター」運動が再燃しました。「ブラック ライブズ マター」運動のきっかけとなったのは、2012年に起きた事件です。2月に南部フロリダ州でトレイボン・マーティンさんという黒人の高校生が夜、フードをかぶって飲み物とお菓子を買って帰るとき、自警団の男性に不審者と見なされて射殺されました。マーティンさんは当時、銃などは持っていなかったにもかかわらず、男性は正当防衛が認められ無罪になりました。

アリシア・ガルザさんという黒人女性がSNSに投稿した文章“Black people. I love you. I love us. Our lives matter, Black lives matter”が始まりだそうです。直訳すると『黒人の皆さん。私は皆さんを愛している。私たちのことを愛している。私たちの命は大切。黒人の命は大切だ』という意味です。

この2年後の2014年にも白人の警察官により黒人の命が奪われるケースが相次ぎました。11月、中西部オハイオ州クリーブランドで、公園でプラスチック製の銃を持っていた12歳のタミル・ライスさんが、通報を受けた警察官により射殺。このような事件が続発し抗議の声が上がり、「Black Lives Matter」(BLM)ということばが広がっていきましました。多くの黒人男性が白人男性や警官から不当な暴力の危険性にさらされ続けてきたということがわかります。

日本にも差別的な構造があり、ルーツの異なる人々や容貌の違う人を抑圧してきました。娘が重度の心身障がい児になった時、障がい者でもこんなことが出来るとか、必死に考えて、その存在の価値を認めさせたいと考えていたことを思い出します。それは間違っていました。存在自体が価値です。

黒人差別とたたかったマーティン・ルーサー・キング牧師が命を狙われながら、語った言葉があります。「私は生まれた時から自分のものであったはずのもののために、闘うことにはもううんざりだ」と。そう言いながらもキング牧師は闘いました。生きる権利、それぞれが尊い存在であるということを認めさせるために闘わなくてはならない現実があります。

沖縄では75年前の戦争で四人に一人が犠牲になったという悲しい歴史があります。そして今も、この地にはいたるところに基地があって、爆音といつ起こるかもわからない事故の危険性があふれています。あたりまえの平和を作り出すために、辺野古や大浦湾ではか細い体でカヌーを漕いで新基地建設を止めようとしている方々がいます。キャンプシュワブ前では、工事の車両を止めようとしているお年寄りたちがいます。こんなことをしないとイケない現実に、沖縄は差別されていると思います。

みなさま、お元気で夏を乗り切ってくださいね。

福祉車両を購入しました

この度、日本財団様の助成事業により補助金をいただき、福祉車両（日産キャラバン）を購入しました。メンバー、アシスタント共に大変喜んでます。

現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為外出はできませんが、日々の送迎に活用しています。



新福祉車両キャラバン

マスク・アルコールシートを寄付していただきました

NPO法人からし種様のご厚意で、台湾の教会からマスクを寄付していただきました。神戸から郭世宗牧師が、愛実の会に直接持ってきてくださいました。

また、アルコールシートや匿名の方々より手作りマス100枚の寄付もありました。皆様からの温かいご支援をいただき、本当にありがとうございました。大切に使用させていただきます。



郭世宗牧師と戸田理事長



手作りマスク

【NPO愛実の会寄付者名（敬称略・順不同）2020年3月1日～6月30日】

★寄付金

加藤 由美子	有村 忠雄	山崎 京子	鶴崎 祥子
安藤 眞知子	藤原 郁子	住田 貞次	丹羽 陽一
尾島 夫規子	加藤 勝敏	脇田 純子	西山 博子
入門 健一	阿部 健二	島 しづ子	加藤 愛子
吉見 よね	宮川 等	蔵知 浩	森田 猛
水戸 潔	戸田 真二		
市原 信太郎・誉子	村上 貴久・裕子		
吉谷 尚之（複数回）	伊藤 あつ子（複数回）		

刈谷教会CS	教団)西尾教会婦人会	教団)岡崎茨坪伝道所
教団)名古屋中央教会	教団)愛知教会女性の会	学校法人金城学院
学校法人緑幼稚園	中部学院大学宗教委員会	京都みぎわキリスト教会
教団)金城教会社会福祉委員会		

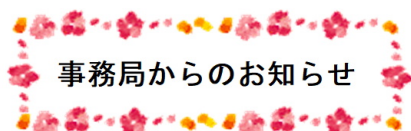
★紙風船夢づくり

南 寿樹	五十嵐 靖	栗原 健	入門 健一
服部 圭子			

★物品寄付

板津 恵子

ご協力ありがとうございました



事務局からのお知らせ

職員人事

新人 ・正職アシスタント 桜井 千恵(紙風船) 波佐谷 俊介(大地の家)
・ドライバー 高嶽 健二 猪飼 健一
退職 ・ドライバー 児玉 敏美

16年間、安全運転を心掛けていただきありがとうございました。

寄付金について

2019年度の寄付金の総額は2,976,915円となりました。

内訳	愛実の会寄付金	2,803,453円
	紙風船夢づくり	173,462円

2020年度寄付金目標額 300万円

新型コロナウイルス感染症予防対策のため
アシスタント支援体制の強化
紙風船夢づくり(人形制作等)



多くの方のご支援、ご協力に感謝申し上げます。引き続き愛実の会をよろしく願いいたします。

尚、当法人への寄付は寄付金控除の対象となります。寄付金受領証明書は1年分を大切に保管してください。

【所在地・連絡先】

特定非営利活動(NPO)法人 愛実の会

□ 居宅介護事業所あみ(ホームヘルプ)

〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24

TEL: 052-693-7645 FAX: 052-746-2639

□ 障がい者デイセンター愛実(生活介護)

〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24

TEL: 052-693-5897 FAX: 052-691-7889

E-mail info@aminokai.com

ホームページ http://aminokai.com

または

愛実の会	検索
------	----

【「認定NPO愛実の会」寄付金のお願い】

郵便振替 □座番号 00850-6-187490

□座名称 特定非営利活動法人 愛実の会 101,000円 何口でも結構です

- ◆ 寄付金(賛助会費・NPO愛実の会の活動に関する費用)
- ◆ 紙風船夢づくり(人形劇制作費、公演活動に関する費用)